



## 唐古・鍵遺跡と耳成山(三山シリーズ・パート①)

田原本町大字唐古から鍵にかけて所在する弥生時代の環濠集落遺跡。奈良盆地のほぼ中央、標高 48 ~ 51 m の沖積地に立地しています。1936 年から 1937 年にかけて、国道敷設用採土に伴い唐古池底の調査がおこなわれ、広大な弥生遺跡であることが確認されました。この時に出土した保存状態のいい土器や木製品等は弥生時代の畿内の遺物編年の指標となりました。

集落は、多条環濠を有し、大型建物や高床・竪穴住居、木器貯蔵穴、井戸、区画溝などの遺構で構成されています。大環濠(内濠)は直径 400 メートルの範囲を囲み、外濠を含めた全体では約 42 万㎡(甲子園球場 10 個分)の面積を占めています。出土遺物の多様さと豊富さから本遺跡は、近畿地方の盟主的な集落と考えられています。遺跡から派遣された石包丁は流紋岩製ですが、その流紋岩は耳成山産であることが確かめられています。遺跡の出土品は、唐古・鍵考古学ミュージアムに展示されています。

さらに、耳成山も、今回は、大和三山めぐりパート①としても訪ねます。

Aグループ 福嶋昭治

1:日時 2024年10月24日(木)

2:集合 10:30 近鉄橿原線「田原本」駅東改札口

◆大和西大寺駅から橿原神宮前行きの電車で来られる方は、トイレも東改札口も後方にあります。

◆橿原神宮前や大和八木から来られる方はホーム前方の地下道をくぐって東改札口に回ってください。トイレは東改札口の手前です。

◆JR奈良線の「王寺」駅のすぐそばの近鉄田原本線の「新王寺」駅から西田原本駅行き電車で来られる方は、終点の「西田原本駅」(トイレも改札口も構内前方です)から 100 m ほどにある橿原線の「田原本」駅のすぐ北の踏切を渡って田原本駅東改札口に回ってください。

3:行程 10:30集合場所 11:00唐古・鍵考古学ミュージアム11:40 12:00唐古・鍵遺跡/史跡公園(昼食と見学) 13:00 13:36橿原線石見駅より橿原神宮前駅行き乗車 13:45大和八木駅着 14:05耳成山登山口 14:30耳成山山頂14:45 15:00耳成山登山口 15:30大和八木駅 解散

4:持ち物 弁当・飲み物・敷物

5:歩行距離 全行程 8.2 km(平坦路 7.0 km 耳成山山道/標高差 75 m往復 1.2 km)

前半 田原本駅→唐古鍵考古学ミュージアム→唐古・鍵遺跡→石見駅 4.5 km 平坦路

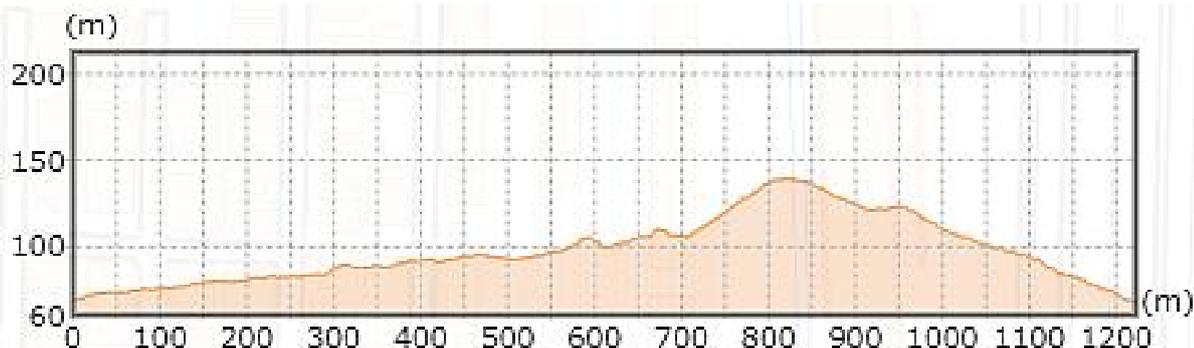
後半 (平坦路部分) 大和八木駅←→耳成山登山口 往復 2.5 km 平坦路

(耳成山) 登山口→山頂→(山口神社經由下山路)→登山口 1.2 km 標高差 75 m。

耳成山登山口から迂回路で山頂、下りは山口神社經由で耳成山登山口まで下山

下図は登山経路の断面図。高さ 2 倍。

全行程 1200 m 標高差 75 m 耳成山山頂 139.3 m



参考 唐古・鍵遺跡周辺こそ、邪馬台国の卑弥呼の宮殿があった場所だという説があります。その代表の村井康彦氏の『出雲と大和』（岩波新書 1405）からの引用（88 ページの一部）です。

↓

これまで述べてきたように、弥生時代の国々の中枢はどこも平野部の微高地に立地する環濠集落にあったと考えるが、邪馬台国の王宮も同様の条件のもと、奈良盆地の中央部にあり、それは現在の田原本町の町域内であった、と断言してよいであろう。その境域はほとんどが市街地となっており発掘不可能な地域であるが、いつの日にか、以上の推論が考古学的に確認されることを願っている。邪馬台国の宮都、卑弥呼の王宮は奈良県田原本町の市街地の下に埋れている。

ちなみに市街地図を開いて気づいたことだが、田原本町の中央部一帯には「大字なし」と記されている。同じことが、秋津遺跡の発掘で近時注目されている御所市にも見られ、市街地の中央部が「大字なし」とある。「大字なし」がどのような経緯で生れ、どのような由緒をもつ場所なのか、明らかではないが、そこが領域のなかの中央部・中枢であり、古い時代から重要な場所であったことを推測させる。私はひそかにその「大字なし」の場所に卑弥呼の王宮があったのではないかと想像しているのだが、『魏志倭人伝』はそれを次のように記している。

都市地図(天理市・川西・三宅・田原本町)より

(昭文社 MAPPLE)

